

山行記「アメリカで一番高い山？」

ホイットニー山(Mt. Whitney)は標高 4418m、カリフォルニア州のシエラネバダ山脈南端にある。2005年夏から留学でカリフォルニアに滞在していたが、ホイットニー山がアラスカ州を除けばアメリカで一番高い山であることを知り、渡米前から登ることに決めていた。ホイットニー山に登ったのは留學生活が終わる直前の 2006 年8月。最短距離で頂上に立てる登山口(Whitney Portal)は自宅のあるサンフランシスコベイエリアから山脈を挟んで裏側にある。車で南から尾根を回りこんで登山口で1泊して登山スタート。富士山に近い高さの Trail Camp で2泊し、間の日には山頂を往復するという山中2泊3日の予定を立てた。

さんさんと陽光降り注ぐカリフォルニアのイメージ通り、滞在中はずっと快晴の穏やかな天気だったが、登りは高山病の頭痛に苦しめられた。Trail Camp 1泊目に夕食を食べ過ぎ酸欠を助長したようだ。4000mを越えてからの1歩1歩は本当に足が重く、子供に追い抜かれ犬に抜かれ、アメリカンサイズのおばちゃんにまで抜かれ、出発が遅れたこともあり気がつけば自分がほぼ最後尾。登頂を終えて引き返す人達とすれ違いながら何とか山頂に到着した。尾根の一部である白い岩場の頂上は広々としていたが、東の断崖からはどこまでも広がる砂の大地が見渡せた。人は僕他には頂上の石小屋に一泊するというSEのおじさんがいて、会話を楽しんだ。続いて登って来たアジア人の若いカップルは男性の親が日本人ということで、日本のことを色々話した。頭痛がひどいことを話すとイブプロフェンの携行を勧められた。僕はこのときアスピリンを飲んでしたが、効き目があったのかは？である。アメリカではどちらでもドラッグストアで買ってしまう。

日帰りのため下山を急ぐカップルを見送ってから最後に頂上を発ち、Trail Camp に戻った時にちょうど日が暮れた。ひとたび高度を下げるとすぐに足が軽くなって頭痛も和らぎ、その後は達成感にも満たされた快適な山旅に変わった。次の日も快晴。日本では絶対ありえない「紺碧」の青空の下、日本とよく似た高山植物(トリカブトとかフウロソウとか)を横目に見ながらゆっくり下山。歩きながら1年あまりの留學生活の泣き笑いを思い出し、もうすぐ帰国しなければいけないことにしんみりした気分になった。留學といってもそれまで海外旅行の経験すらなかったので、初めの数ヶ月は多くの日本人と同じ様に英会話でとても苦労した。でも英語漬けの生活の中でだんだんと話せるようになり友達もでき、キャンプやスキーと一緒に出かけると楽しい思い出を作ることができた。気の置けない仲間と関わるうちに、自分にはまだまだ知らない世界があり、もっと柔軟に考え、生きることができるのではと思えるようになった。こうして人生2回目のモラトリアム(笑)が終わった後もその時の前向きな気持ちを忘れないようにと、公私ともに海外進出する機会をうかがっている。



ふもとの町(Lone Pine)へ続く道